

群馬県生態系等被害防止外来種リスト 掲載種の付加情報

番号	区分	科名	和名(別名、流通名)	学名	特定外来生物	特に問題となる地域や環境	備考
104	侵入警戒種	オモダカ	ナガバオモダカ(ジャイアントサジタリア)	<i>Sagittaria weatherbiana</i>			貧栄養水域での生育も可能。同じオモダカ科をはじめ、多くの水生植物への影響が危惧される。また、アクアリウムで用いられる種であり、放逐されるリスクがあることも留意する必要がある。
105	侵入警戒種	トウダイグサ	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>		平野部。侵入すれば荒地、河川敷	高崎間屋町駅構内で逸出が確認されたが、保線作業により除去され、萌芽は除草剤により枯死した。ただし、街路樹等からの逸出のリスクは南部平野部で高い。
106	侵入警戒種	アカバナ	オオバナミズキンバイなどを含むルドウィギア・グランディフロラ	<i>Ludwigia grandiflora</i> (L. grandiflora ssp. grandiflora)	○		琵琶湖などで蔓延し、問題になっている。ナガエツルノゲイトウほど切迫度はないが、侵入すると希少種を含む在種に甚大な影響を与えるおそれがある。
107	侵入警戒種	ハエドクソウ	ハビコリハコベ(グロツステイグマ)	<i>Glossostigma elatinoides</i>		溜池、池沼や水田:アクアリウムで用いられる植物のため、どこに入ってもおかない	いったん侵入すると、小型の株が密生し、駆除困難。アクアリウムで多用される種であり、同様な用途をもつ水草が近年県内で相次いで報告されており、本種も野外放逐が考えられる。
108	侵入警戒種	セリ	ドクニンジン	<i>Conium maculatum</i>			すでに渡良瀬遊水地に侵入している。猛毒であり、誤食による重篤な中毒が懸念される。